

東名ジャンクション 上部空間等検討ワークショップ

第1回のまとめ

日時：平成26年9月14日（日）
午前9時～午後0時40分
場所：喜多見小学校 2階図書室
出席（住民等）：30名
（外環事業者）：
国土交通省・ネクスコ東日本
ネクスコ中日本・東京都

開会

1. 外環事業・ワークショップ・検討たたき台の概要説明

- ・配布資料に基づき、外環事業の概要、上部空間等検討ワークショップの位置づけ等、上部空間等利用計画・検討たたき台の概要について区から説明。

質疑応答

- ・本体工事の状況に基づき上部空間等の検討が行われるべきである。外環事業者から、料金所の蓋架けや換気塔の形状等について秋口に方向性が示されると聞いていたが、どうなっているのか。
（区） 上部空間等の検討に関係の深い料金所付近の蓋架けの件については、外環事業者から、現時点では調整中であり、なるべく早く調整すると聞いている。情報を把握した時点で、上部空間等の内容も更新していく考えである。
（ネクスコ中日本） ネクスコ中日本内部で調整中であり、少しでも早くご提示できるよう進めたい。
- ・検討たたき台では料金所周辺に福祉施設系があるが、排気ガスが多いところに配置できるのか。
（区） 上部空間等の利用については、ワークショップでご意見をいただきたい。
- ・外環道路は迷惑施設と考えている。国土交通省からも環境が悪くならないように道路境界から20mの緩衝地帯を設け、木をたくさん植えることにより環境基準を満たすとの回答であった。高速道路側には高木の常緑樹を植えて、野川や機能補償道路側には春は桜、秋は紅葉と、少しでも崖線と外環の間の住民の気持ちをやわらげるようなみどり豊かな場所をつくってくれると考えている。これからの議論についても地元住民の気持ちを勘案して議論を進めてほしい。
（区） ご意見としてお伺いする。

- ・よりよい環境をつくるために、成城4丁目、喜多見8・9丁目の外環に挟まれているエリアが参考になる。非常にみどり豊かな場所であるが、そのほとんどが人工のみどりである。野川は昭和45年に狛江市役所の辺りからこの崖線の下に移してきた人工河川であるが、40年経ってみどり豊かな河川になっている。小田急喜多見車庫の上部空間をきたみふれあい広場として活用している。以前、成城4丁目の外環上部の幅約40m・延長300～400mの区域で植樹を行い、その場所は今では林になっている。人工的なものとはいえ、非常にみどり豊かな場所である。住民も協力するので、行政のやる気次第で、迷惑施設を整備する代わりに自然へ恩返しすることを、検討いただきたい。

(区) ご意見としてお伺いする。

- ・検討たたき台では学校施設系が高架下にあるが、アンダーパスになった関係で環境が変わってくる。喜多見小学校の第二校庭について、騒音や排気ガスの問題がどうなるか分からないので疑問である。また、ものづくり系として新たに企業を誘致する予定なのか。環境施設帯は地元のために使うものと聞いていたが、第二校庭の横に新たな事業者を誘致することに疑問がある。子どもたちの健康を第1に考えてほしい。

(区) 本日、現場を実際に歩き、空間を感じていただき、検討をお願いしたい。

環境等の情報については、次回までに調べられる範囲でお知らせしたい。ものづくり系については、道路占用許可の関係もあり公共の方向で予定している。中に入る施設については、今後の検討であるが、民間事業者が直接入ることは想定していない。

2. 上部空間等検討にあたって

- ・配布資料やパワーポイントに基づき、住民主導型まちづくりの事例、魅力あふれる上部空間の実現のための留意点について稲垣先生から検討の視点を紹介。

3. ワークショップの進め方について

- ・配布資料、まち歩き説明シートに基づき、ワークショップ(全3回)の進め方、検討の参考資料、本日のまち歩き等の進め方について、区(コンサルタント)から説明。

4. まち歩き

- ・参加者が5班に別れ約3kmのルートを歩き、上部空間等を確認。各班、区職員1名以上、コンサルタント1名が同行し、要所で説明。

5. まち歩きを踏まえての自由討議

- ・まち歩き終了後、各班で上部空間等の感想やアイデア等について意見交換。

以上

『まち歩きを踏まえての自由討議』

(1 班)

【施設の利用について】

避難所的な施設もつくってほしい(野川の水害には留意する必要がある。)

【換気塔について】

換気塔について、プロポーシオンやデザインで風景に与える影響が異なるので十分考えてほしい。

【ワークショップの進め方等について】

たたき台は白紙として、検討したい。

街づくり検討会での検討経緯等と整合を図るべきである。

地域住民の意見を優先してほしい。

まちが良い方向に進む良いきっかけになるように検討していきたい。

ゾーニングについては、必要性和り付け方の検討が必要であり、バランス、環境についての検討が不可欠である。

【情報の提供が必要】

たたき台に関する区からの説明が十分ではない。ゾーニングの根拠など、各所管でどのように考えたのか、情報を提供してほしい。

小学校校庭など学校施設系を検討していくのであれば、大気汚染などの情報がほしい。

料金所付近など、蓋掛けできない理由を教えてほしい。

現オープンハウス付近の用地も対象にすれば、世田谷通りまでの区間が広がり、バス停などの活用ができる。なぜ対象外なのか教えてほしい。

煙突には排気機能はもちろんであるが、外環本体で火災が発生した時などの対応について、情報を提供してほしい。

首都直下大地震時には外環は通行止めになるが、その際の防災計画、避難計画等について教えてほしい。

(2 班)

【道路環境について】

多摩堤通りと機能補償道路の交差点は、交通処理の検討が必要である。

世田谷通りと多摩堤通りの交差点は、交通処理の検討が必要である。

多摩堤通りや機能補償道路の歩道環境を考える必要がある。

【施設の利用について】

自治会の集会施設が必要(コミュニティを守る。)

料金所のそばに福祉施設を建設するのは、環境面(排気ガスの影響)に問題があるのではないか。

【みどりとみずについて】

野川の周辺は土地の高さが変わる。水と調和した環境づくり、水と緑の調和が必

要。区民からのアイデアもほしい。

【東名高速高架下区域について】

東名高速高架下は、平面ではなく立体的に空間が把握できるようにしてほしい。検討たたき台の配置について考えるには、平面だけでは情報が足りない。

喜多見小の第二校庭は、候補地への移動が危険であり、子どもが機能補償道路を渡るための交通安全の配慮も必要である。学校施設を導入するなら、死亡事故発生箇所と看板も出ているくらいの危険箇所であることを認識すべきである。

東名高速高架下の利用を検討するには、例えば、仮に暫定的な公園として植え込みをつくるなどすると、見本となって分かりやすい。地域住民がイメージしやすくなるような配慮が必要である。

【ワークショップの進め方等について】

区域取りの線で土地利用を明確に考えることは難しい。周りの生活、敷地について考えたい。

【情報の提供が必要】

排気ガス、PM2.5 など環境面の説明、拡散範囲など図示し、分かりやすく説明してほしい。

換気塔の高さはどれくらいか。景観・眺望・風景がどうなるかについて横から見た情報（立面図等）がほしい。

換気口の性能、本数は？ 有害物資はどれくらい吹き上がり、どれくらい落ちてくるのか。排気ガスで環境はどうなるのか教えてほしい。

道路が高くなると自分の土地は窪地になる。日影の補償もない。高さの情報がほしい。

東名高速道路の高架下の高さ、橋脚間の長さの情報がほしい。

水道橋は橋桁の高さがかさ上げされると聞いている。野川右岸にも影響が生じるはずで、今回の検討対象区域外の人々への配慮が必要である。敷地や路面等の高さの変化の情報の充実をお願いしたい。

野川沿い区域では、各地で埋蔵文化財調査が行われているようだが、情報提供してほしい。

(3班)

【みどりについて(野川沿い区域)】

緑を増やしてほしい(西洋的な緑地で若者を呼び込む、散歩しながらコミュニケーションが取れるづくり、大きなみどりも欲しい、ドックラン)。

緑地を優先してほしい。今の生態系を調べ、植物、昆虫、鳥など、生息できる環境を復元してほしい。

神宮外苑と同じような樹林地にしてほしい。中を散歩できるようにする。倒木など安全対策は行うが、できるだけ手を加えない自然林にする。

たくさんの常緑の広葉樹を植えてほしい。砧公園の樹林は排気ガスをストップしている。

元々はこのあたりは木が多かった。復元してほしい。この事業で60%はよかった、40%はやむを得ないと言えるようにしたい。

【施設の利用について】

障害者施設を作るなら、子どもの犯罪者の就労支援施設も含めてほしい。
施設は地域住民優先のものにしてほしい。高齢者向け健康施設、上部自治会の代替施設（集会所）を作してほしい。
建物施設はやめてみどりを優先してほしい。
古民家を移築してほしい。

【東名高速高架下区域について】

ものづくりの意味が分からない。住むところとつくるところを分けて、居住環境に相応しいものにすべき。
ものづくりは必要ない。他の有効な施設にすべきだ。
ものづくりについて、どこの誰が使うか疑問だ。日曜大工など地元住民が使うものならよい。
高架下の校庭には無理がある。物置や備蓄倉庫なら分かるが、子どもの健康上どうかと思う。大気、騒音などを調べ、その結果を見て考えてほしい。
高架下に校庭は無理である。子どもは青空で遊ばせたい。

【道路環境について】

永安寺側から機能補償道を通して多摩堤通りに抜けられる道づくりをしてほしい。

(4班)

【みどりとみずについて】

国分寺崖線と外環の間は今以上の環境悪化を避け、緑を増やし植栽等を前提に他施設は無しとしたい。
上部空間については、可能な限り緑地帯にすべき。
崖線と野川の自然の一体化が必要。緑地帯を作してほしい。
野川沿いには桜や紅葉を植栽して、地域住民の心を少しでも癒せるように。
いかにしてコンクリートの塊を周囲から見えないようにするか。緑(高木常緑樹)を厚く入れることを第一に考えて。

参考：小田急の北側(成城4丁目と喜多見8・9丁目の間)の景観、環境。

- ・野川(人工河川、昭和45年)
- ・きたみふれあい広場(小田急車庫の屋上緑化)
- ・外環上部の緑化(平成14年)

高速道路沿いは高木常緑樹を植える。

桜並木、バーベキュー広場、市民農園(例：いちご畑、なし畑、他)

【歴史を残す】

歴史を展示する場。

歴史ある場所であるため、地域の自然を残す空間利用。

【施設の利用について】

町会の集会所（料金所に管理施設を整備する際は、町会の集会所も併設してほしい。）

【高架下について】

高速道路下（高架下）の利用は柱が多く、安全上に問題あり。

【道路環境について】

外環の計画との取付け、機能補償道路、野川にかかる橋の幅員が中途半端。

（5班）

【周辺の公園との連携】

次大夫堀公園の芝生広場はとても人気がある。大事にしていきたい。

砧公園やきたみふれあい広場など周辺の緑と連担させて、グリーンベルトの形成を。

野川と上部空間にできる公園が一体となった空間にしていきたい。

周辺に砧公園やきたみふれあい広場などの公園があるため、新しく公園を作るにあたっては、この場所に人が集まってくるための魅力づくりが必要。

【道路環境について】

機能補償道路と水道道路の交差点付近は、今でも自転車の転倒などの事故が多い。水道道路の拡幅で事故が増えることを懸念している。

機能補償道路が整備されることで、通過交通が増えることを懸念している。

【みどりについて】

機能補償道路沿いに緑化してほしい。

ジャンクションの構造がアンダーパスになったことは良かったが、緑化はしっかりと行ってほしい。

【施設の利用について】

多摩堤通り沿いをもっと魅力ある空間にしてほしい。多摩堤通り沿いの暫定利用区域に「道の駅」のようなものを設置してはどうか。

福祉施設は障害者だけではなく、高齢者など地域に開かれた地域のための施設にしてほしい。

福祉施設の建築により、公園・緑地・運動施設系区域との連続性が失われ、ここに「壁」ができてしまう。他の場所に移動させてほしい。

福祉施設をこの位置にした理由が「多摩堤通りに近い場所」であるなら、喜多見大橋の北側の飛び地に建築したらどうか。

福祉施設の内部に緑地スペースを設けてほしい。

『第1回 感想・意見シート』

【防災について】

この場所を地域の防災拠点と位置づけてほしい。

- ・周辺の町会・自治会合同の資材保管庫を設けてほしい。
- ・車両の出入りを可能とするための設備を設けてほしい。

【みどりのみずについて】

大気汚染の悪化を防いでほしい。高木の常緑樹をたくさん植えて、排気ガスの浄化とPM2.5飛来の防御壁としてほしい。

田直地区は緑にあふれた野趣豊かな地域で、自然の豊かさを求めてこの地に移り住んできた。子どもたちのためにも良い環境を残してほしい。

国分寺崖線からの湧水が流れている水路がある。その水を利用した親水公園をつくれないだろうか。

道路によって人が端に追いやられ、人が住める場所ではなくなると思う。野川の魚・鳥・草花はどうなるのか。できれば工事を中止にしてほしい。喜多見の自然を大切にしたい。町中の道路を広くするのは賛成である。

【ワークショップの進め方等について】

区としては利用価値が高い場所ではあるが、多くの住民が移転を余儀なくされていること、また住み続ける周辺住民にとっても開通後の環境影響を受け続ける可能性が高いことから、地元へのメリット・地元の要望を最優先してほしい。

外環道は迷惑施設でマイナスも多いが、皆で知恵を出し合い、上部空間利用などでプラス面を増やし、プラスマイナスを考えればプラスが多かったと言われるようにしたい。

【交通について】

田直地区は難交通地域である。デマンドバスのような交通機関をつくってほしい。

『検討たたき台の公表・意見募集により9月25日までに寄せられたご意見』

騒音や大気汚染、野川の環境破壊を心配している。

「下宿」と「永安寺」のバス停の間が開きすぎている。田直公園にバス停を作ってほしい。